

第 9 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年12月12日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 9 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年12月12日（月曜日）

午前9時59分開議

午前10時53分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (5) その他

出席委員(15人)

委員長 溝口幸治
 副委員長 早田順一
 委員 氷室雄一郎
 委員 藤川隆夫
 委員 小早川宗弘
 委員 西聖一
 委員 浦田祐三子
 委員 高野洋介
 委員 濱田大造
 委員 橋口海平
 委員 楠本千秋
 委員 河津修司
 委員 末松直洋
 委員 山本伸裕
 委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 奥 蘭 惣 幸
 政策審議監 磯 田 淳

観光経済交流局長 中 川 誠

観光課長 永 友 義 孝

国際課長 小 金 丸 健

国際課政策監 末 藤 尚 希

くまもとブランド

推進課長 柳 田 紀代子

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

国際スポーツ大会

推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 金 子 徳 政

教育政策課長 田 村 真 一

体育保健課長 平 田 浩 一

総務部

人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長 斉 藤 浩 幸

地域振興課審議員 鈴 和 幸

健康福祉部

障がい者支援課長 井 上 康 男

土木部

道路都市局長 松 永 信 弘

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 中 村 勇 一

交通規制課長 森 教 烈

事務局職員出席者

政務調査課審議員 中 村 彰

政務調査課主幹 法 川 伸 二

午前9時59分開会

○溝口幸治委員長 ただいまから第9回国際スポーツ大会推進特別委員会を開会いたします。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思います。

なお、委員会の運営を効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔にお願いをいたします。

それでは、順次説明をお願いします。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 おはようございます。国際スポーツ大会推進課長の水谷でございます。

本日は、お手元の資料によりまして、9月の定例会以降に実施しました取り組みや、今後のスケジュールなどを中心に説明させていただきます。

失礼して、座って説明させていただきます。

お手元の第9回国際スポーツ大会推進特別委員会資料をお願いします。めくっていただいて、1ページをお願いします。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催に関する件についてです。

大会の概要の①の大会期間ですけれども、11月2日の大会組織委員会理事会におきまして、2019年、平成31年になります、11月30日土曜日から12月15日日曜日までの16日間と決定されました。できるだけ多くの皆様に御観戦に来ていただけるよう、週末を3回含めることとなりました。

大会会場は、前回御説明いたしましたとおり、メイン会場がパークドーム熊本、サブメイン会場がアクアドーム、それと八代市、山鹿市それぞれの総合体育館の県内4会場となっております。

2ページをお願いいたします。

本年度の取り組み、主にPR活動などをまとめております。

①、②、③は、前回の委員会で報告いたし

ましたが、③のラジオ番組につきましては、毎月第4木曜日に放送しております。

ルールや、さまざまな大会の見どころなどを紹介しております。次回は12月22日木曜日の夕方5時15分から約10分間の放送が予定されておりますので、お聞きいただければと思います。

3ページをお願いいたします。

④は、9月末に熊本テルサで開催されたハンドボール愛好者の集い「界熊会」及び「2019女子ハンド世界大会を成功させる会」についてです。

県内高校ハンドボール部のOB、OG、各地域のハンドボール協会や県内のハンドボール愛好者、また県議会からも御参加をいただき、大会開催に向け機運醸成が図られたところ です。

⑤は、10月上旬に開催されたイベントの様相です。城下町大にぎわい市では街中に、ロアッソ市民DAYでは県民総合運動公園陸上競技場に、ブースを設置し大会PRを行いました。

4ページをお願いいたします。

⑥は、10月10日の体育の日に開催された、ふれあいスポーツの日についてです。

イベントの一環としまして、千原台高校において、男子ハンドボール日本リーグの強豪チーム、大同特殊鋼の選手によるハンドボール教室が開催されました。多くの子どもたちが参加し、選手たちとゲームを楽しむなど、楽しいハンドボール教室となりました。

当日の様相は、地元民放テレビで放送されるとともに、事前告知では多くのテレビスポットが放送され、世界選手権の告知を行いました。

⑦は、会場地となった八代市、山鹿市の両行政、地元ハンドボール協会向けに、大会開催に向けた説明会を開催したところ です。

⑧は、ねんりんピック長崎でのPRについてです。スポーツ庁のお声掛けにより、10月

の14、15日に長崎県で開催されたねりんピック長崎にブースを出展し、大会PRを行いました。ブースには、スポーツ庁の鈴木長官も訪れていただきました。

5ページをお願いいたします。

⑨ですが、10月18日から22日まで、事務局職員2名がスイス及びドイツを訪問し、国際ハンドボール連盟及び日本熊本大会の前の大会が開催されるドイツのハンドボール協会と打ち合わせを行い、大会開催準備に向けた情報交換などを行ってまいりました。

⑩は、10月下旬に熊本市で開催されたイベントのPRです。

6ページをお願いいたします。

⑪は、県庁プロムナードへのバナーの掲示です。10月末に県庁プロムナード、議会棟周辺を含め県庁敷地内に女子ハンドボール世界選手権大会及びラグビーワールドカップのバナーを掲示しました。イチョウのライトアップも始まったことありまして、多くの人々の目に触れたことと思います。今後も順次都市装飾を行い、機運を盛り上げてまいりたいと考えております。

⑫ですが、組織委員会の評議員会を開催いたしました。会場都市として選定された八代市、山鹿市のそれぞれの市長が組織委員会の理事に選任されております。

⑬は、組織委員会の理事会についてです。11月2日に開催され、大会期間、試合会場、また、くまモンを大会の公式キャラクターに任命することが承認されました。

また、大会の招致活動を行った委員会を引き継いだ熊本推進協議会を組織委員会に統合し、効率的に準備を行っていくことが決定されました。

⑭は、当事務局に協賛車を御提供いただいている株式会社村田自動車に対して、感謝状を贈呈したところです。大会のシンボルマークを車体に描き、PR活動も兼ねて大会準備に活用させていただいております。

⑮は、日本の政・官・財のハンドボール経験者の会「界友会」が行われたところです。会には、来賓として麻生副総理も参加されるなど、大いに盛り上がったとお聞きしております。また、この場をお借りして、大会のPRも行ってまいりました。

8ページをお願いいたします。

⑯ですが、人吉市で開催された日本スポーツ用品協同組合連合会九州ブロックで、大会PRを行いました。店舗でのポスター掲示などの協力を依頼され、先日、早速九州管内分としてポスター300枚を送付いたしましたところです。

⑰、続く⑱ですけれども、東京熊本県人会や全日本インカレ大会でもPRを行っております。

⑲は、山鹿市親善ハンドボール大会の様式です。会場地の1つである山鹿市内の小学校6年生全員を対象に開催されました。競技の普及が進むとともに、参加者全員に大会グッズを配布するなど、大会PRもあわせて行いました。

⑳は、熊本市の街中で行われたファッションショーに、地元オムロンハンドボールチームの選手が出演しユニフォームの変遷を紹介するなど、ハンドボールと大会のPRを行いました。

10ページをお願いいたします。

今後のスケジュールです。

①の上のほうからですけれども、年明けの1月から、日本女子トップレベルのハンドボールの試合が県内各地で開催されます。多くの皆様に会場にお越しいただき、ハンドボール競技のおもしろさに直に触れていただきたいと思います。

また、ことしは日本リーグのプレーオフが初めて熊本で開催されます。女子の優勝チームを決める白熱した試合となります。地元オムロンピンディーズが優勝できるよう、1月からの試合とあわせて多くの応援をお願いし

たいと思っております。

次の2月には、日本ハンドボール協会がJSC日本スポーツ振興センターの助成を受け、熊本で女性アスリート支援事業を実施されます。海外のチームカザフスタンと、今予定されていますけれども、の参加のもと、国際試合やさまざまなカンファレンスを通じ、選手の強化、コーチング、レフリングなど、さまざまな取り組みが計画されています。

海外では、この冬大きな国際大会が開催されます。大会の事前準備のため、それぞれ視察調査を行うこととしております。

現在行われているヨーロッパ選手権には、女子の大会ということもあり女性職員3人が、現地在住の日本人元プレーヤーのアテンドで、更衣室など女性の視点で調査を行うこととしています。

1月の男子世界選手権では、警察本部の方の同行もお願いしており、警備や輸送関係なども含め調査を行ってまいります。

3月のアジア予選は、12月のドイツ女子世界選手権の出場権がかかる大会です。韓国での試合は演出を含め大変盛り上がりますので、その盛り上げ方などについて調査を行いたいと考えております。

③は、その他のスケジュールについてです。

1月から2月にかけて体育保健課のほうで、国際スポーツ大会競技普及事業として、県内10カ所の学校で授業の一環としてハンドボール教室が開催されます。

3月には、国際ハンドボール連盟による会場等の視察が予定されています。

女子ハンドボール世界選手権大会関係の説明は、以上でございます。

続きまして、11ページをお願いいたします。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件です。

今回12月補正予算として、5億2,500万円

余をお願いしております。

内容については、12ページをお願いいたします。

いずれも、ワールドカップの水準を満たすためのスタジアムの改修のための経費です。

資料の左のほうですけれども、照明の高照度化として4億7,600万円、財源としては、国の社会資本整備総合交付金の活用を予定しております。

また、真ん中の緑のピッチ部分ですけれども、人工芝及び17メートル高のポストの整備として4,900万円余となっております。

照明の高照度化についてはLED化し、ピッチの照度を現行の1,500ルクスを2,000ルクスにいたします。

また、ピッチの整備は、現在の107メートル掛ける70メートルを、ワールドカップサイズの130メートル掛ける80メートルに拡大するための人工芝、また、そのピッチサイズに合わせた高さ17メートルのポストを整備するものです。

右上にありますけれども、9月に補正予算をお願いしました更衣室、ドーピングコントロール室に引き続きの改修となります。

その他の項目につきましても、ラグビーワールドカップ2019組織委員会やラグビーワールドカップリミテッドと協議を行いながら、本設工事は大会の1年前まで、仮設工事は大会までに整備していくこととしています。

13ページをお願いいたします。

大会PR等の各種取り組みです。

①から14ページの⑤につきましては、前回の委員会で報告いたしましたので、省略させていただきます。

⑥につきましては、10月上旬に開催された熊本市内でのイベントは、熊本市の銀座通りで県ラグビーフットボール協会によるストリートラグビーが実施されました。このように、ラグビーボールに触れるきっかけを今後もつくりたいと考えております。

15ページをお願いいたします。

⑦ですけれども、体育の日のふれあいスポーツのイベントとして、県民総合運動公園でラグビー大会が開催されました。多くのチームが参加し、またハンドボール同様、同会場でPRを行うとともに、当日の様子はテレビ放送と告知スポットが放映されました。

⑧は、ラグビーワールドカップ2019の公式アンバサダーによる開催都市表敬訪問についてです。

大会3年前ということで、10月11日にラグビーワールドカップ公式アンバサダーの桜庭吉彦氏、昨年のワールドカップイングランド大会日本代表の廣瀬俊朗氏が熊本を訪問し、小野副知事、大西熊本市長と大会開催に向けた意見交換が行われました。

16ページをお願いいたします。

⑨は、10月16日に大分で開催されたトップリーグについてです。後ほども出てまいります。ワールドカップラグビーの九州の3つの開催地、福岡、熊本、大分が機会を捉え、合同でPR活動を行っております。

また、資料には記載していませんが、10月21日には大分県議会、ラグビーワールドカップ大分開催協議会の皆様、大分県議会議長も含め9名が熊本を訪問されました。熊本の会場を視察されました。また、その前には溝口委員長にも御対応いただきまして、連携して取り組むことの重要性などについて意見交換を行ったところです。

⑩から⑯までは、これまで説明したものと重なりますので、割愛いたします。

なお、17ページの⑭、「街中コレクション in KUMAMOTO」では、県内唯一の女子ラグビーチーム「スィーティレディベアーズ」から、高校生女子選手4名が出演され、大会のPR等に御協力をいただきました。

また、⑮のラジオ放送では、ラグビー競技に関するPR活動も継続的に展開されており

ますので、御紹介させていただきます。

18ページをお願いいたします。

今後のスケジュールについてです。

①は、公認チームキャンプ地誘致についてです。

前の定例会でも御質問のありました、大会期間中の公認チームキャンプ地についてですが、希望する自治体は12月22日までに組織委員会に応募する必要があります。

公認キャンプ地は、下の表の右側、青点線の枠内に記載しておりますとおり、大会期間中に出場国チームが滞在するキャンプ地で、そこをベースに試合会場に移動し、試合が終わればまた帰ってくる、いわばベースキャンプ地となります。組織委員会が一元管理し、宿泊費、移動費、食料費などは組織委員会が負担します。

県内には誘致を検討されている自治体もありますが、練習会場やホテルに求められる水準が高く、仮に応募しても組織委員会などから候補地として選定されるか、また選定されてもチームから選ばれるかどうかはわかりません。

ワールドカップの本大会では、熊本では3試合程度が行われる見込みですけれども、試合会場にはキャンプ地から直前に入り、試合後早々にキャンプ地に戻る例も見受けられます。そのため、本県での大会開催の効果を最大化し、今回の施設整備を有効活用するため、県総合運動公園のサブグラウンドと熊本市内のホテル利用などを前提とし、現在、熊本県、熊本市連名で応募する準備を進めているところです。

②は、その他のスケジュールです。

年内には、大祭開催に向けた会場運営計画を、組織委員会からラグビーワールドカップリミテッドに提出することになっており、現在、組織委員会と計画の確認作業を行っているところです。

1月から2月にかけては、ハンドボール同

様、体育保健課の方でラグビー教室、県内10地区の学校でラグビー教室が開催されます。

年度が明け5月10日には、京都で本大会の予選プール組分け抽選会が行われます。

10月には、本大会の試合日程及び会場が発表される予定です。熊本で何月何日に、どこ対どの試合が行われることが決定します。

来年度は日本大会の姿が明らかになり、準備も本格化していくこととなります。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催関係の説明は以上です。

続きまして、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件についてです。

めくっていただいて、20ページをお願いいたします。

①から③は、省略させていただきます。

④ですが、ノルウェーのボート・カヌー競技団体が事前キャンプ地として菊池市を選定し、10月10日ノルウェーオリンピック委員会、日本オリンピック委員会、菊池市、本県の4者により、基本合意書を締結しました。

21ページをお願いいたします。

⑤は、蒲島知事の東京都小池知事の訪問です。

10月11日に、蒲島知事がくまモンとともに東京都の小池知事を訪問し、熊本地震の支援に対するお礼を述べました。あわせて、東日本大震災からの復興五輪として位置づけられている東京オリンピック・パラリンピックにおいて、熊本地震からの復興支援も行っていただくよう、要請いたしました。

小池知事は、ラグビーワールドカップでの連携、東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地の誘致や、リオ五輪メダリストの派遣、オリンピック旗、パラリンピック旗のフラッグツアーなどを通じた支援を約束されました。

⑥は、東京オリンピック・パラリンピック

等のキャンプ地誘致に係る市町村訪問についてです。

10月から11月にかけてキャンプ地誘致の意向を示している7市町村を訪問し、意見交換を行うとともに、競技施設や宿泊施設を調査し、今後の進め方などについて意見交換を行いました。

22ページをお願いいたします。

⑦は、全日本女子レスリングチームによる熊本での強化合宿についてです。

10月31日から11月6日、リオオリンピックの金メダリストを含む全日本女子レスリングチームが、県民総合運動公園で強化合宿を行いました。

全日本女子レスリングチームが熊本市で強化合宿を行うのは、金メダル4個という大きな成果を残したリオオリンピック前に続き2回目です。

熊本市の実行委員会が誘致されましたが、練習会場、宿泊、温泉等がすばらしかったとして、再度行われたものです。

公開練習やメダリストによるトークショーなど、県民との交流も行われました。県としても、このような取り組みを引き続き支援していきたいと考えております。

⑧は、JOCによるリオオリンピックメダリストの、熊本地震支援活動です。競泳の萩野公介選手、ウェイトリフティングの三宅宏美選手が、熊本市、阿蘇郡、上益城郡の被災地の学校を訪問し、オリンピックの応援に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、次代を担う子どもたちに夢や希望を持つことの大切さを伝えていただきました。

23ページをお願いいたします。

⑨は、日本体操協会による訪問です。

内村航平選手を初めとした体操日本代表選手たちが、熊本市の中学校と益城町の小学校をサプライズ訪問し、トークショーや記念撮影が行われました。

⑩は、インドネシアバドミントンチームに

対する誘致活動です。

11月に、インドネシアバドミントン協会の役員改選があり、新会長にお祝いメッセージを送るとともに、改めてキャンプ関連施設の視察を要請しました。

本県は、国のホストタウン構想において、インドネシアを相手国として登録しております。また、先日のインドネシアバリ州とのMOUに基づく取り組みをいたして、国際スポーツ大会の開催や東京オリンピック・パラリンピックなどのキャンプ誘致につなげていきたいと思っております。

続きまして、飛んでいただいて26ページをお願いいたします。

国際スポーツ大会関連の、主なスケジュールについてです。

来年度は、女子ハンドボール世界選手権では、日本熊本大会の前の大会となるドイツ大会が開催されます。

それが終わると、いよいよ次の熊本大会に向けた取り組みが本格化します。

また、ラグビーワールドカップでは、プール分けが大会に先がけてされるとともに、施設整備が本格化してまいります。

さらに、来年度以降はプレ大会やテストマッチを開催し、競技の普及、機運の醸成を図っていきたくと考えております。

27ページをお願いいたします。

本年度の取り組みです。

①は、くまもとハロープログラムについてです。

9月と10月に、県内の産学官金労言などの団体の代表者による、くまもとハロープログラム策定委員会を開催し、熊本国際スポーツ大会のレガシープログラムであるくまもとハロープログラムを策定しました。

概要は、中央の点線内に記載しております。2019年から2020年の国際スポーツ大会開催やキャンプ地誘致を通じて、熊本の次の世代に有益なレガシー・遺産を残していく取り

組みを取りまとめたものです。

その取り組みの方向性は、下のⅡの記載のとおり、震災からの復興の姿の発信、スポーツの普及と振興、インバウンド観光の推進、国際交流の促進の4つとしており、これら4つの方向性に従い、県内の行政、企業、団体等がさまざまな取り組みを行っていただくよう、事務局として取り組んでいきたいと考えております。

詳細につきましては、別冊に「くまもとハロープログラム」として添付しておりますので、後ほどごらんいただければと思っております。

②は、国際スポーツ大会推進事務局の機能強化についてです。

11月に事務局をICT化し効率的に業務を行っていくため、テレビ会議システムを構築しました。すでに、このシステムを活用して、国際ハンドボール連盟やラグビーワールドカップ組織委員会とのテレビ会議を実施しております。

28ページをお願いいたします。

③は、スポーツ文化ワールドフォーラムについてです。

10月20日、東京オリンピック・パラリンピックに向けたキックオフイベントとして、IOCバッハ会長を初めとした国内外のスポーツ関連要人による講演や文化イベントが開催されました。

当日は、ワールドラグビー会長らによるラグビーワールドカップの基調講演等が行われたほか、事務局からも参加し、会場で女子ハンドボール世界選手権大会のPRなどを行いました。

④は、熊本国際スポーツ大会実行委員会の設立についてです。

11月2日に国際スポーツ大会やキャンプ地誘致をオール熊本で盛り上げ、熊本のレガシーを構築していくことを目的として、県内の議会、行政、教育、報道等の各機関や、経済、産業団体、スポーツ団体等の代表者316

名の御賛同を受け実行委員会を設立し、その総会を開催いたしました。特別委員会からも多数御参加をいただき、ありがとうございました。

29ページをお願いします。

⑤ですが、11月にスポーツ庁を訪問しました。熊本地震の被害状況、競技団体からの復興支援、スポーツ分野での県勢の活躍とともに、熊本での国際スポーツ大会の準備状況、実行委員会の設立などの報告を行い、今後も支援していただくよう要請してまいりました。

右の写真は、11月2日の実行委員会でアンバサダーに任命された、くまモンの縫いぐるみを持参したところ、早速スポーツ庁の受付に置いていただいたものです。

⑥は、国際スポーツ大会推進事務局の現在の体制です。

10月1日から、地震業務に対応していた熊本市の職員が1名復帰し、3課22名の体制として、現在、業務を行っています。

以上で、説明を終わらせていただきます。

○溝口幸治委員長 それでは、説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かございますか。

○藤川隆夫委員 ちょっとラグビーにも絡むんですけど、ラジオ等を使った、媒体を使った広報活動を今されておりますけど、第4週がハンドボール、第2週がラグビーという話になっている。

現状は月1回でいいのかもしれませんが、近まってきたら、来年度以降ですね、ある意味もうちょっと本数をふやしていく必要があるかというふうに思いますので、それを近まってくるにつれて、例えば最終的にはもう毎日やるような形に持っていくとか、そ

んなところまでちょっと計画を立てて進めていったほうが、逆に言うと県民への周知という意味ではいいのじゃないかなと思いますので、それをどういうふうに考えているのかを、まず教えていただければと思います。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 ありがとうございます。

現在ラジオ放送は、放送局の御厚意によると思いますか、時間を割いていただいて出させていただいております。

藤川委員がおっしゃったように、大会が近まれば近まるほど、いろんなお伝えしなければいけない情報がたくさんになってきますので、そのときはもちろん協力もお願いしますが、こちらから積極的にPR活動を、予算を使ってでもやっていきたいと考えております。

先ほどスケジュールを見ていただきましたけれども、今後プレ大会とかテストマッチも開催されますので、その機会を捉えて大会の告知を積極的に今後展開していきたいと考えております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○氷室雄一郎委員 今、藤川委員のほうからPRの話がありました。これは8月中旬の何かアンケートで、女子ハンドボール世界選手権を知らないというのが60%という、ラグビーのほうは35%ということで、さらに認知度も深まっているんですけど、その後いろんな、ずっとPRのお話をされましたけれども、状況としては大分変わっていると思うんですけど、この状況みたいなものはどうなんでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 氷室委員のおっしゃったアンケート調査といいますのは、報道もされましたけれども、8月の19日

から28日に調査が行われたものでございます。県内在住の約1,000名の方、20代から50代に行われたと聞いておりますけれども、熊本の開催を知らない割合が、ラグビーは35%、女子ハンドは60%という状況でした。

その後、9月7日だったと思いますけれども、ハンドボールの大会会場を県内4会場にするとか、ただいま御説明したようなPR活動もやっておりますので、若干は変わってきているかとは思っておりますけれども、まだまだ認知度を上げていかなければならないと思っております。

ラグビーとハンドボールちょっと差があるんですけれども、ちょっとそれを考えてみたときに、ラグビーの場合は日本国内12会場で行われる日本を挙げてのイベント、オリンピック、ワールドカップサッカーに並ぶ世界3大イベントの1つということもあって、かなりいろんなところで目にしたり耳にしたり、機会があるのかなと思っておりますけど、現在、残念ながらハンドボールはちょっとそういう状況にはありません。

ただ、ハンドボールの場合も、前回の男子の大会のときには、最初は今のような御心配も確かにたくさんいただきましたけれども、大会が始まって実際見ていただいて非常に、見てみると迫力があるしおもしろいということで、最終的には多くの方に御観戦いただきました。

ですので、できるだけ早くハンドボールを多くの方に見ていただいて、ハンドボールのおもしろさを知っていただいて、そういった中で認知度を上げていって、本大会につなげていけるかなと考えております。

○溝口幸治委員長 よろしいですか。

ハンドボールの件、はい。

○濱田大造委員 ちょっと基本的なことを教えてください。

女子ハンドボールを盛り上げていくのはいいんですけど、競技人口は熊本県で例えば女子の高校で何チームぐらいあるのかとか、あとクラブチームは女子でどのぐらいあるのか。基本的には、女子ハンドボールをやっている人から盛り上げていって、それをサポートするというのが正常な形かなと思っておりますが、ちょっと具体的な数字がわかっていたら教えてください。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 恐れ入りますけど、別冊の「くまもとハロープログラム」の3ページをお願いいたします。

上のほうにハンドボールの登録チーム数、登録選手の推移というのを示しておりますけれども、2015年で、これ小中高になりますけど、チーム数として100チーム、登録選手数で2,104となっております。

なぜ、こういう表を調べてみたかといいますと、1997年に男子の大会があった後、ふえていったのかどうかというのをちょっと検証しようと思って調べたわけなんですけれども、結果としては余りふえておりません。ただ、この間、少子化ということで子どもの数が減っていく中での、ほぼ同じ数を維持しているの、健闘しているのではないかとは考えておりますけれども、できるだけまた多くの方にハンドボールに触れていただきたいとは考えております。

○溝口幸治委員長 よろしいですか。ほかにハンドボールの件ございませんか。

○河津修司委員 先ほど藤川先生、氷室先生が言われたとおり、今からどうやって盛り上げていくかというのを、私どももこの間、東大阪市へ行ってきたんですけど、そのときの話ではラグビーのほうが、もうすぐ1,000日前になるから、千日前から市民一人一人に出てもらって、プラカードを出してもらって、

何日前というのを、それをテレビで撮って、ケーブルテレビで毎日流していきますという話だったんですけど、なるほどなと思ったのは、やはりそういった市民が参加することによって機運が高まってくると思うんですね。ですからラグビーよりかハンドボールのほうが、もっともっとやっぱり皆さんに周知度が足りないというふうな話でしたら、やっぱりその辺の何か変わった周知の仕方というのも考えていくべきではないかなと、いろいろ参考にすることはあるかと思えますから、その辺を参考にしながらやっぱりやっていただければと思います。

○溝口幸治委員長 御意見でよろしいですか。はい。

ほかにございませんか。

なければ、次にラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について質疑を行います。どなたかございませんか。いいですか。

なければ、次に2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑はございませんか。

○濱田大造委員 20ページになるんですが、菊池市に、20ページの4番で、ノルウェーのボート・カヌー競技団体が菊池を選定したということなんですけど、ちょっと以前も同じ質問した方いるかもしれませんが、その経緯を教えてください。選定された理由ですね。

それと6番で2020東京オリンピック・パラリンピックの市町村が7市町村あるということですが、どういった競技が候補に上がっているのか、もうちょっと詳しく教えてください。以上です。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 まず最初のノルウェーのほうですけれども、これは福岡県福岡市のほうにノルウェーチームが包括的にキャンプをやるかという検討が先にあ

りまして、いろんな競技を当然やるわけなんですけれども、その中で近くに、熊本の菊池にボートの練習場で非常にいいものがあるという情報がそのノルウェー準備委員会のほうに入りまして、ことしの3月に、じゃ1回見ようということで、視察に来られました。

実際見ていただいて、非常に練習会場として素晴らしいということと、またあわせて宿泊も大切な要素なものですから、近くの菊池市内の宿泊施設も実際見ていただいて、これならできるんじゃないかという印象を持って、一旦は帰っていただきました。

その後、帰られていろいろと調整された結果、ボートについては熊本、ほかの競技は福岡でされるようなんですけれども、ボートについては熊本の菊池でということ決定されたというふうに伺っております。

それと、もう一つの市町村のほうなんですけども、ちょっと具体的な市町村名は言えませんが、希望する種目としましてはレスリングでありますとかバドミントンでありますとかサッカーでありますとか、そういったもの、ちょっといろいろ、まだターゲットが絞りきれてない部分もありますけども、いろんなその地区、地区の施設の強みとかを生かした誘致をしたいというふうに伺っているところです。

○溝口幸治委員長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

○早田順一副委員長 21ページの、蒲島知事が小池知事を訪問されたというのが載っていますが、東京都以外というか、特に九州我々にしてみれば、なかなかオリンピックとかパラリンピックの結びつきというのがなかなか見えないんですけれども、非常に蒲島知事が訪問されているいろんなことを約束をされたということではありますが、具体化するために今

後、東京都とどういう連携をとって行かれるのか、その辺がわかれば教えてもらいたいですけれども。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 先日、東京のほうでオリンピックに向けたシンポジウムが開催されまして、その際溝口委員長も出席されたと聞いておりますけれども、その後その担当課のほうと打ち合わせを行いまして、具体的な時期や、このフラッグツアーについて今後どう進めていくかについて協議を行っております。

また 日常的にといいますか、ことあるときに東京都の担当課とはその情報交換をしておりますので、そのフラッグツアーの実施も含めていろいろ、どういったことをやっていくか、東日本の3県も合わせてどういったことをやっていくか、情報共有しながら進めていきたいと考えております。

○早田順一副委員長 ぜひ熊本県にも経済効果があらわれるように、ぜひしっかり取り組んでいただきたいと思います。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○藤川隆夫委員 事務局の件なんですけど、現在、震災関係で人間がちょっと減っているような状況があると思うんですけど、これからオリンピック・パラリンピックまでずっと続けて、おそらく事務局動いていくと思うんですけど、人員体制について今後どのようなふうに考えているのかが1点と、もう1点、当然こちらへ来られる、競技等を見に来られる場合、ハンドボール、ラグビーに来られる場合の宿泊の関係で、本当に現状の宿泊施設で足りているのかどうか、あるいはそれ以上必要なのかどうか、その付近をおそらく検討されていると思うので、その付近を教えてくださいただければと思います。

（「委員長」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 ちょっと待って。今2020東京オリンピック・パラリンピックですので、皆さんなければ今の共通の事項というところで藤川委員の質問にいきたいと思いますが、オリンピック関係はありませんか。はい。

なければ、共通する事項に入りたいと思います。それで、今の藤川委員の御質問に。

○平井人事課長 人事課でございます。

体制でございますけれども、地震で3名抜かせていただきまして、他のところで活用させていただきました。

前回の1997年のハンドボールのときに、競技が開催される年の前年にフルの体制に持っていました。25名体制でございました。

今回も、開催年の31年の前年までにはフルの体制に持っていく必要があるのかなと思っておりますが、29年がそのはざまの年になります。

どこまで持っていくかというのは、今震災のほうで人のやりくりをしておりますので、今後、事務局と協議しながら固めていこうと思っております。

ただ、28年度からスポーツ大会のための任期つきというような形での採用も始めておりますので、そういったものを活用しながら体制を整えていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○溝口幸治委員長 ほかに共通する事項についてございませんか。

○高野洋介委員 たぶんラグビーなのか女子ハンドで言えばよかったですよけど、先ほどのPRの件なんですけど、例えば2月の19日に熊本城マラソンがありますよね。あの前日、前々日にゼッケン取りに大体辛島公園

に行かれますよね。2日間におそらく1万数千の方が来られます。

私も何度か走ったことはあるんですけど、あの場でいつもチラシが入るのが、岡山マラソンのチラシは毎回配られるんですね。毎回配られて、行ってはないんですけど脳裏には焼きついているんですよ。ですから、その手法というのは非常に大きな手法だと思っております。

ですから、2日間ですけど、事務局さんには非常に手間をかけますが、そういう手法を使って、やっぱり何回も何回も県民や県外の人にPRする必要があるかなと思いますが、そういった考えはどうお考えでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 ありがとうございます。

実は、けさもミーティングでその話題が Outcome しまして、今回はいろんな資料が、そのもらえる袋の中に入っているんですけど、その中にぜひうちの大会の資料も入れてもらうようにちょっとやろうと。ただ、袋の重さが何か決まっているらしくて、それを超えるとまず外れる、優先順位が高くないと入れてもらえないというのがあって、まずは必要な資料ですね、マラソンに必要な資料、それとスポンサーさん関係の資料あたりのせめぎ合いで、ちょっと今、特に熊本市の職員さん頑張っておられまして、ぜひ入れていくようにけさも話したところでございます。

また、おっしゃったようなことを使って、どんどんPRさせていただきたいと思っております。

○高野洋介委員 岡山マラソンは袋に入れておらぬで、手渡しで渡しておられるんですよ。あれって、ものすごく効果的なんですよ。袋の中身は正直、私は余り見らぬです。

やっぱそういう手法が非常に私は効果的だと思いますので、ぜひ再考されて、熊本市と

連携を図ってもらって、やっていただきたいと思っております。

以上です。

○溝口幸治委員長 ちなみに、同日はひとよし春風マラソンが開催されます。

ほかにございませんか。はい。

○末松直洋委員 先日、委員会で東大阪と一緒にいったときに、いかに地元の人間にお金を落とさせるかということに非常に重点を置かれておりましたので、何か転んでもただじゃ起きないというような、大阪あきんどの思いをちょっと感じたわけですけども、そこら辺のやはり民間の盛り上がりが今のところ欠けているというところなので、これを利用して、いかにお金をもうけるかというか、そのような視点からもぜひ大会を考えていただければと思います。これは要望です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○橋口海平委員 ボランティアに関してなんですが、今からいろいろ大会に向けてボランティア募集とか育成とかをしていくかと思いますが、大学だったり高校とのそういうボランティアに関しての連携というのは、どのように考えているのでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 ボランティアについては、正直言いまして今後検討も含めやっていくところではございます。

ただ、先ほど説明しましたレガシープログラムの策定委員会で、大学コンソーシアムの方も参加していただきました。

その際に、ぜひ大学生をボランティアに使っていただきたいと。それは、もちろん大会のためにはありますけど、大学生のためにも非常になるからということでおっしゃっていただいたんで、そういったところと連携し

て、多くの方に参加していただきたいと考えております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○橋口海平委員 最近、こういう2つの大会に向けたわけじゃないんですが、トップアスリートの選手が被災地に結構行っているんですが、できればほかの地域も、精神的に傷ついたり、そういう子どももいるので、そういうところにも紹介していただきたい。

例えば、八代、人吉なんか、なかなかトップアスリートとかの来る姿を見てないので、ただやっぱり関連して、地震の影響とかも向こうもあっているんで、そういうところにも目を配っていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○浦田祐三子委員 済みません、ちょっとタイミングを逃したので、さっきのラジオの件で言えばよかったんですけど、先ほどラジオでのPRはされていらっしゃるということだったんですけど、やっぱり日々すり込みが大事だと思うんですけど、テレビとの連携とかそういうのはされていらっしゃるのか、考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 考えてはおるんですけども、何分テレビとかになると結構お金もかかるもんですから、そういったものはテーマを絞るといいますか、プレ大会に向けてとか、本大会に向けてとか、そういったことを集中的にやりたいとは考えております。

ただ、先般の男子の大会のときの例で言いますと、例えば夕方のローカルニュースのときに、ここにちょっとマスコットを置いたり

とか、ちょっとコメントを出していただいたりとか、そういったいろんな、包括的に協力していきましょうということもやりましたので、そういったことも今回もぜひやりたいなと考えております。

○浦田祐三子委員 それもお金かかるんですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 包括的にといいますが、それが単品で幾らというわけではないんですけども、地元の媒体としてぜひ協力して、みんなで盛り上げていきましょうという協力、たくさん当時はテレビソースも流しましたし、番組もつくりましたので、そういった中で、こういう部分もやっていきましょうということで、協力していただきました。

○浦田祐三子委員 そういうのを目に見るところに書いていただくような、おそらく熊本県のことなんで協力していただけるんじゃないかと思しますので、ぜひともしっかりお願いをして対応していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 さっきの藤川委員の宿泊施設が足りるのかというお話なんですけども、実は今、主にやっていますのが、ラグビーとかハンドボールの選手向けのホテル、宿泊、一定レベルのレベルが求められますし、数ももちろん要るんですけども、そういったものをどれだけまず用意できるのかというのは、今重点的にやって、一般の方の観客の方ももちろん多く来ていただきたいんで、そういうものを含めて、ちょっとこれもおくらせていますけども、今後、調査をして

進めていきたいと考えております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

では、私からいいですか。

きょう皆さん方から出たのは、まずPRをしっかりとってくださいということと、もう一つは、せっかくだから経済効果、どうつなげていくかというのがきょう主な議論だったと思います。

それで、例えばラグビーがどこのチームが熊本でやるとか九州でやるのが決まるのが来年10月ですね。それからハンドボールだと、女子世界選手権なんかが終わってアジア予選なんかが終わって大体決まっていくので、世界を相手にするといってもやみくもにやっても一緒なので、大体そういうのが見えたときに、選手の宿泊もそうですけど、観光、いわゆる一般の方たちをどう呼び込むかというのが、そこから動き出すんだろーと思いますけど、そのあたりの今の準備の状況と、そういうタイミングよくきちっと攻めていくというのがどの程度、皆さん方の中で議論がされているのかということ、ちょっと教えていただければというふうに思います。観光課長とか、それはもう既に考えておりますという答えが返ってくると非常にありがたいですけど。

○永友観光課長 熊本市におきまして、今インバウンド客が非常に減っているんですね。ふっこう割も活用して、インバウンドも呼び込みを図っているんですが、なかなか九州全体に今戻ってきてないという状況です。9月でも対前年比でいうと5割ぐらいなので、早急にインバウンド回復をまずしていかないといけないというところ。今正確な情報発信を行いつつ、旅行会社へのセールスや旅行博覧会出展とか、いろいろやっているところですが、まずは対前年まで持っていくというところで、今いろいろ手を打っています。当

然2019年に向けて、国際スポーツ大会推進課のほうとは連携を図りながら、委員長のおっしゃったとおり、やみくもにやってもしょうがないので、まず本県は東アジアそれから東南アジアが主要ターゲットでございますので、それからこの国際スポーツ大会を見据えて、欧米、豪も呼び込みたいというふうに考えております。今、欧米、豪の方々というのは、東京それから名古屋、大阪、京都といった、このゴールデンルートがメインになりますので、そこらから九州、熊本に持ってくるかという対策の検討を進めているところでございますので、しっかりとそこら辺は国際スポーツ大会推進課と連携を図りながら、組み合わせ等が決まれば、そこも視野に入れながら対策を打っていきたいというふうに考えております。

○溝口幸治委員長 我々が思っている以上に、海外の人って地震に敏感なんですよ。ですから、今どれだけPRしても厳しいのかもしれないんですが、大体、試合日程とか会場が決まる、女子が出場チームが決まるというぐらいのときに、あわせてきちっと震災大丈夫ですよというメッセージが発することができて、そして観光客を、たぶんその国の言語でパンフレットをつくったりとか呼び込みをやらないとなかなか厳しいでしょうから、そういう準備をしっかり商工観光労働部挙げて準備をお願いしたいと思います。

また、末松委員のお話では、多分農産物とかこういったものも一緒にきちっとPRをするよという趣旨もあったんだと思いますので、県庁挙げて準備のほうをよろしく願いたいというふうに思います。

（「ちょっと関連して」と呼ぶ者あり）

○西聖一委員 今インバウンドとアウトバウンドの話も出たんですけど、この前議会で何か知事が言われた、空港の見直しですよ。あの辺のスケジュールとこのスポーツ大会の

関係はどうなるのかなど。やっぱり入って来て新幹線と空港が一番の顔じゃないですか。そのとき工事中というのは、非常にまずいという気がするんですけど、そこらはどうなんでしょうか。

○溝口幸治委員長 じゃ、その件については、また後日ですね。ただ、あれだけの規模の改修をやっていくので、2019あたりがどうなるかというのはですね。

○河津修司委員 今のにも関連するんですけど、この大会に合わせて国道57号線の復旧或いは北側ルートができていないのか難しいところ。国に任せてあるから分かりませんという話かもしれぬけど、この大会に合わせて何とかしたいという考えがあるのかなのか。大会関係なしになるべく早くやりますというだけなのか、その辺の考えはどうですか。

○松永道路都市局長 土木の道路都市局長です。

非常に難しい質問で、御承知のように阿蘇の国道57号については、新聞報道でありましたように、やっと斜面上部の砂防関係が無人施工に目途がついて、年明けから現場に人が入ってボーリング調査等に入るので、いよいよ道路の復旧についての検討が始まる状況になっております。

俵山ルートは近々一部迂回路を使って開通ということですが、後は立野ダム関係でそのままになっている長陽大橋は、既に報道ありましたように来年の夏を目途として開通ということです。

現時点で分からないのが、その北側の新たなトンネルを掘るルート、それと橋梁6橋が被災しています俵山ルートの復旧、これについては正直申し上げて、現時点では国からも特に明確な開通時期というのは我々にも伝わ

ってきておりません。

委員から御指摘がありましたように、ワールドカップなどのイベントとは大きな1つの目標になり得ますので、そのあたりについては我々からも可能な限り、イベントを目途としてお願いしたいというのは常々伝えているところです。ただ、現場の状況等がありますので、これについてはまだまだ未確定な部分があると思っています。

以上です。

○河津修司委員 なかなか今の時点では難しいところがあると思いますが、特にワールドカップは大分も開催しますから、大分との関係も出てくると考えておまして、やはり大分との行き来が頻繁に行われるためには、何とか国道57号線を一部でも通れるようにして欲しいという思いがありますので、頑張ってくださいと思っています。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。なければこれで質疑を終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他に入ります。その他で何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 なければ、これもちまして本日の委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午前10時53分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により
ここに署名する
国際スポーツ大会推進特別委員会委員長